

■板垣直子 文芸評論家。戦前ではほとんど唯一の女性評論家として活躍，戦後も発表し続けた。

いたがきなおこ

松隈内閣・1896＝ 青森県北津軽郡栄村(五所川原市)で，平山兼吉の次女に生まれる。本名なを。

日露戦争終・1905＝ 9歳：

青森県立弘前高等女学校在学中，

明治天皇没・1912＝16歳：校友会誌に文章を発表し始め，

第一次大戦始1914＝18歳：日本女子大学校英文科に入学，

第一次大戦終1918＝22歳：卒業。研究科に在籍し，

原敬首相暗殺1921＝25歳：_母校の推薦で，東京帝国大学の初的女子聴講生の一人となり，哲学者桑木厳翼，宗教学者姉崎正治らの講義を受講，とくに美学の大塚保治を尊敬するようになる。芸術評論家でのち早大教授板垣鷹穂と結婚。

関東大震災・1923＝27歳：平山なをを名で，ゲオルク・グロナウの「レオナルド・ダ・ヴィンチ」を翻訳出版，

満州事変・1931＝35歳：*「現今日本の女流文壇」を，谷川徹三が岩波書店の{文学}に取り上げてくれたことから，
五一五事件・1932＝36歳：{都新聞}の上泉秀信，続いて雑誌{新潮}の中村武羅夫から原稿の依頼があって，_評論家としての出発，
国際連盟脱退1933＝37歳：*早くも，{東京朝日新聞}に「三木氏に与ふ」を寄せて，三木清のエッセイを剽窃であると糾弾し，林達夫らを巻き込んで，文壇の話題となる。単行本は「文芸ノート」を皮切りに，

_諸紙誌等に膨大な評論を投稿し続け，

日中戦争始・1937＝41歳：

総動員+健保 1938＝42歳：_「現代小説論」，

大政翼賛会・1940＝44歳：「農民文学の新研究」，

日米開戦・1941＝45歳：「文学建設」_「事変下の文学」，

近代の超克・1942＝46歳：_「樋口一葉」_「現代の文芸評論」，

創価学会検挙1943＝47歳：「現代日本の戦争文学」，

敗戦・1945＝49歳：

新憲法公布・1946＝50歳：「漱石・鴎外・藤村」，

極東裁判決・1948＝52歳：「文学論」「人生の探究」「女性の歩いたみち」，

朝鮮戦争始・1950＝54歳：「欧州文芸思潮史」，

独立回復・1951＝55歳：

自衛隊発足・1954＝58歳：_「婦人作家評伝」，

55年体制始・1955＝59歳：千葉大学講師。ほかに，日本女子大学・国士館大学講師をつとめている。

国連加盟・1956＝60歳：「林芙美子」「平林たい子」「漱石文学の背景」，

なべ底不況・1957＝61歳：「文学概論～古い文学新しい文学」，

美智子妃・1959＝63歳：「山本有三」，

安保闘争・1960＝64歳：

大学紛争始・1965＝69歳：「林芙美子の生涯～うず潮の人生」，

美濃部都知事1967＝71歳：「明治・大正・昭和の女流文学」，

震ヶ関ビル・1968＝72歳：

石油ショック1973＝77歳：*「夏目漱石-伝記と文学」まで多数の単行本を出版，

田中角栄逮捕1976＝80歳：{国士館大学人文学会紀要}に_「安部公房の文学」を発表したのを最後に，

JALハイジャック・1977＝81歳：_没した。

畑中健二「三木清一板垣直子の剽窃論争とその周辺」，インターネット，